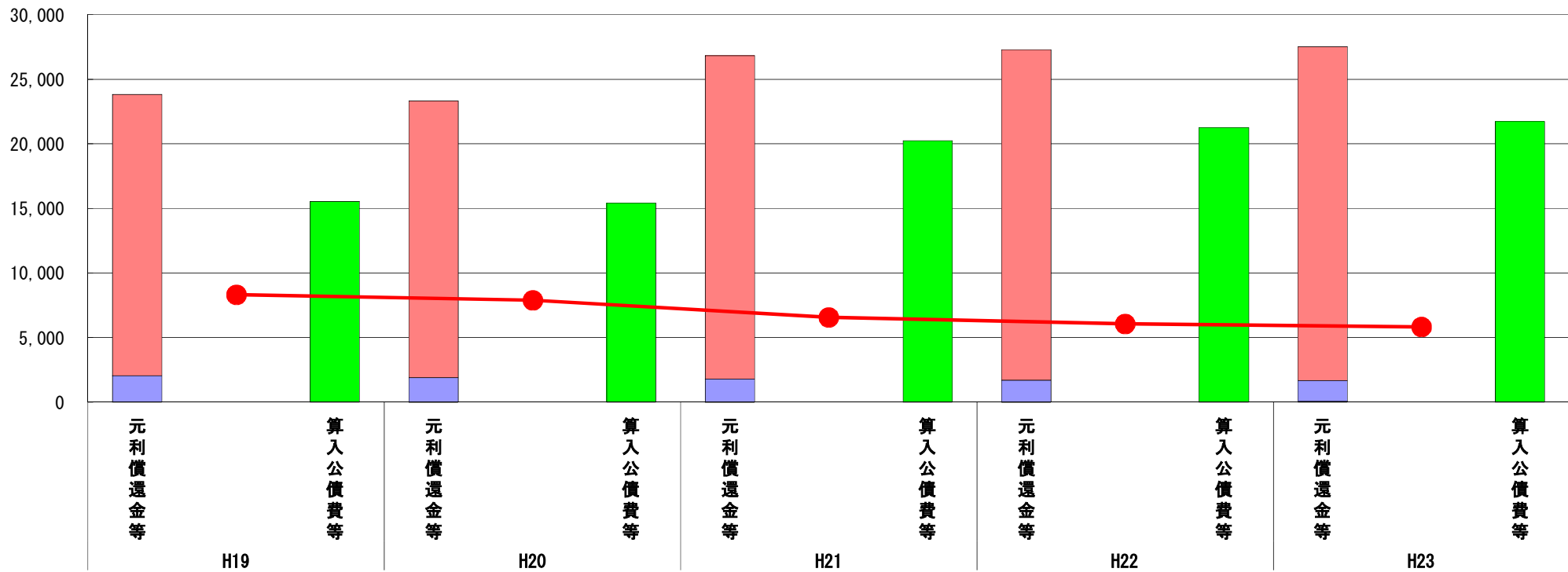


(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

鹿児島県鹿児島市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
元利償還金等 (A)	元利償還金		21,788	21,402	25,015	25,594	25,847
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		2,022	1,898	1,780	1,690	1,612
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		23	15	13	13	68
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		15,518	15,406	20,240	21,239	21,704
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		8,315	7,909	6,568	6,058	5,823

分析欄

元利償還金が増加してきているが、控除される特定財源等も増加していることにより、実質公債費比率の分子は、年々減少してきている。

今後も、借入額を元金償還額の範囲内に抑制するとともに、公的資金の補償金免除による繰上償還を行うことなど、実質的な市債残高を減少させ健全財政の維持に努める。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。